

◎米聖公会の分裂が公然化

【C J C = 東京】女性や同性愛者の聖職任命など性に関わる問題で揺れていた米聖公会（英国国教会）に正式な分派が誕生した。米国とカナダの保守派主教、司祭、信徒たちで結成する『コモンコース・パートナーシップ』が、シカゴ郊外ホイートンの福音自由教会を会場に、『アングリカン・チャーチ・イン・ノースアメリカ』を12月3日発足させた。700教会、会員約10万人が加盟する米聖公会に代わる組織、「管区」と自認している。

当面は米聖公会を離脱したカリフォルニア州フレズノのサンウォーキン教区、ピッツバーグ教区、イリノイ州クインシー教区、テキサス州フォートワース教区で構成される。

同日発表された声明は、「北アメリカに英国国教会を登場させるものと自らを位置づけている。「教憲草案」の公表は、聖書的、宣教的な北アメリカの英国国教会を目指す確固とした1歩だ」と、ロバート・ダンカン前ピッツバーグ主教は言う。同氏はこの9月に米聖公会を離脱、主教職を罷免されている。

聖公会の霊的最高指導者カンタベリー大主教のローワン・ウィリアムズ氏は、管区設立には特定の手続きがあり、手続きは一度開始されても終了までに時間が掛かる。今回のシカゴでの『コモンコース・パートナーシップ』に関してはその手続きはまだ始まっていない、と語った。同派の通信エписコパル通信が報じた。

『コモンコース・パートナーシップ』は、アメリカン・アングリカン・カウンスル、アングリカン・コーリション・イン・カナダ、アングリカン・コミュニオン・ネットワーク、アングリカン・ミッション・イン・ザ・アメリカズ、アングリカン・ネットワーク・イン・カナダ、コンボケーション・オブ・アングリカンズ・イン・ノースアメリカ、フォワード・イン・フェイス・ノースアメリカ、リフォームド・エписコパル・チャーチなどの8グループとケニア、ウガンダ、南半休（南ア）聖公会と連携する主教や教会の連合体が加盟している。

◎ヨルダン川西岸で家屋占拠のユダヤ教徒入植者を強制排除

【C J C = 東京】イスラエルの軍と警察は12月4日、占領地ヨルダン川西岸のパレスチナ自治区ヘブロンで、1軒の建物を違法に占拠していた約200人から250人の過激なユダヤ人の入植者らを強制排除した。入植者は投石などで抵抗。当局は催涙ガスで応戦し、双方の計約35人が負傷した。

入植者らはこの建物をパレスチナ人所有者から購入したとして、07年3月から住み着いていた。ただパレスチナ人側は売却を否定している。イスラエル最高裁は11月中旬、所有権を認めず明け渡しを命じていた。

入植者の多くはユダヤ教正統派で、入植を「神に与えられた『祖先の地』への帰還」と正当化。付近のパレスチナ人住民と衝突を繰り返す一方、最近では強制排除を阻止しようとして、当局に対しても暴力を激化させていた。入植者たちの暴力や家屋占拠が頻発するヘブロンで、入植者の強制排除が行われたのは06年5月以来。

ヘブロンでは4日夕から夜にかけ、極右ユダヤ人の若者グループがパレスチナ人に発砲や投石を繰り返し、AP通信によると、パレスチナ人計17人が負傷した。極右グループはまた、パレスチナ人の家屋数戸や車両などに放火した。強制排除に反発し、騒ぎを起こしたと見られる。ヘブロン以外の西岸の数カ所やエルサレムで、極右グループが通行車両に投石し、20人以上が拘束された。